

NILS SEMINAR

タンパク翻訳後修飾による転写制御の分子機構

加藤 茂明先生

東京大学・分子細胞生物学研究所 教授

加藤先生は、2004-2009年のERATO“加藤核内複合体プロジェクト”において多くの業績を上げられ、2010年からは特別推進研究“転写制御を担うエピゲノム調節の分子機構の解明”を進められています。

キーワードは、転写、ヒストン、メチル化/アセチル化、エピゲノム、核内受容体。染色体ヒストンタンパク修飾の特異的組み合わせによる遺伝子発現制御が、エピゲノムの中核として注目を集めており、医学の分野でも再生、癌、環境ホルモン、代謝疾患、加齢などとも深く関係します。

本セミナーでは、急速な勢いで展開しているエピゲノム研究で世界をリードしている加藤グループのホットな話題を提供いただけるはずです。

平成23年4月8日午後4時～5時
研究所2F会議室

連絡先
運動器疾患研究部
池田（内線5501）